

若手技能労働者の確保、育成を目的に大阪府建団連（一般社団法人）が主催する「建築・技能体験フェスタ」取材しました。
このイベントを通して感じた、建設業の未来を紹介させていただきます。

どう変わる？ 建設業の未来

最新技術で効率化は進む

ドローンを使用したの測量

ドローンで空から地面の様子をデータ化でき、専用ソフトでデータを加工し、図面や3Dモデルの作成ができます。
人が立ち入れない崖や、土砂崩れの現場でも安全に測量でき、国土交通省の直轄工事でもドローンによる三次元測量が使われているそうです。



バーチャルの世界で安全教育

バックホーの操作をVR（仮想現実）を使って体験しました。

操作レバーがあり前進や後退、アームの旋回などもでき、クレーン機能を切り替えずに荷のつり上げ作業を行ない、旋回すると転倒するというものでした。

このようにVRを使えば、実際では難しい教育も安全にできるようになっています。



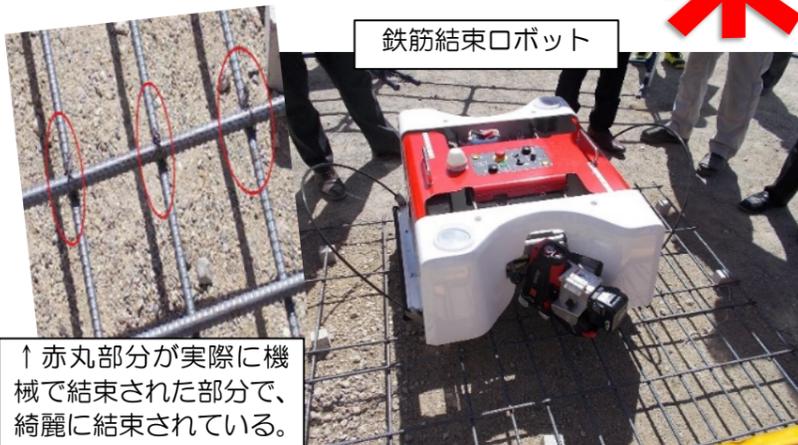
VR体験の様子

人に変わって単純作業

鉄筋工がハッカーを使い、手作業で行ってきた鉄筋結束ですが、機械化が進んでいます。

最近では、ワンタッチで結束ができる鉄筋結束機が発売され、自動で鉄筋の結束を行なうロボットが登場しました。

前進と後進しかできないため、人の手でロボットを移動させる必要がありますが、直線距離が長い現場では作業効率が上がります。ロボットによる施工は正確で疲れを知りません。



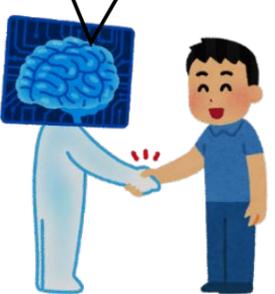
鉄筋結束ロボット

↑赤丸部分が実際に機械で結束された部分で、綺麗に結束されている。

熟練の操作技術がデータ化

今までバラバラになっていた測量データや設計データと、各工程から得られた情報を、他の工程にも活用し、生産性の向上をはかっています。
例えば、法面工事では、斜面に沿って一定の深さを油圧ショベルで削る場合に、どれくらい削るのかを示す作業が必要で、判断には熟練の技術が必要でしたが、データを取り込んだ建機だと、熟練の技術がなくても作業ができるようになりました。

人工知能



それでも職人の技術はなくならない！

型枠大工体験を通して

職人さんによる実演を見ると、ハンマーを使い型枠の淵を叩いたり、釘を無造作に打っているように見えました。

しかし、この作業の体験を通して、話を聞いてみると大きく印象が変わりました。

鉄筋コンクリートの建造物を建てる際、その形を決めるのは型枠であり、釘とハンマーを使って行なう作業は一見大胆なようで、セパ穴や、表面の傷・汚れなどが建造物の造形に影響を及ぼす繊細な仕事であると感じました。

せき板の加工工程での機械化はできて、組立は手作業なため職人は必要とのことでした。



職人による実演



職人さんに親切に指導いただきました。

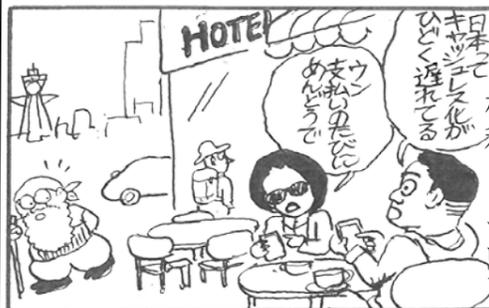
建設業の未来について

これからも最新技術の活用で効率化は進んでいきます。

しかし、繊細な作業など、人間の技術でしかできないことが沢山あります。

急速な進化を遂げる技術が人の仕事をつぶすのではないかと、いう意見がありますが、現段階では人を補助する方向で進むのではないかと思えますし、機械に取って代われない技術がより貴重になっていくのではないかと思います。

川口さんから みなさんに年賀状が届きました



新年 あけまして おめでとうございませう。今年も良い年にしましょう。

良い年には自分たちが力を合わせればできると思っています。

大阪は建設の仕事がある都市です。今も住宅、ホテル、商業施設、ビル、道路、鉄道、近くは大阪万博関連工事、もり沢山です。

けれども仕事があるだけで、建設現場の業者、労働者が幸せになれるものではないです。それなら先輩はみなそうなっている筈です。

幸せになるためには、先ず安全です。「危ないから気をつける」ではなく、危なくないようにするのが元請の責任です。

働くのは、人間らしく生きるための日当を得るためですからそれが保障されなくてはなりません。憲法第25条はそれを国民の権利としています。

川口末夫 プロフィール

近畿建設専門工事業教育情報センター主宰や建設さわやか新聞の発行をされています。

現場労働者の処遇改善のため、熱中症予防や過重労働・労災事故の防止、日当の改善など様々な活動されています。

毎年センターには、労働者のみなさんのためにネックガードをたくさん寄贈してもらっています。

労働者だけでなく、下請け事業所の取り下げ単価の向上などの処遇改善の取り組みもされています。

夏の暑い盛りにはセミも鳴きません。そんなときに無理をすると熱中症で命を失う危険があります。仕事の軽減、日当の割増がいります。

人間には休みが必要です。日単位の睡眠、休憩、休息時間がいります。週単位の休日、年単位の年次有給休暇がなくては、自由な日がありません。祝日は、日当がつかなくなったら失業日になってしまいます。

そんな勉強は自分のためですから楽しいです。それが力を合わせる始めになります。やがて世の中が見え、世界が見え、人生の希望が拓けます。

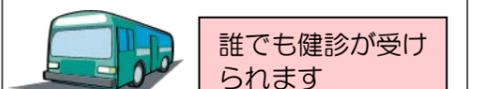
労働者が力を合わせると親方、業者も幸せになります。人としての条件が、下請単価の最低基準になるからです。業者の方もなぜ単価が安いのか、上げるにはどうするか勉強されるのもいいことだと思います。

建設キャリアアップシステムは建設業振興基金が運用している、技能者一人ひとりの就業履歴や資格を登録し、技能の公正な評価、仕事の品質向上、現場の効率化などにつなげるシステムです。

本システムに登録した技能者に対し、ICカード（建設キャリアアップカード）を交付し、「いつ」「どの現場に」「どの職種で」「どの立場で働いたのかを、日々」の就業履歴として電子的に記録・蓄積します。

同時に、資格の取得や、講習を受けたという履歴も蓄積します。こうして蓄積された情報をもとに、それぞれの労働者の評価を適切に行ない、処遇の改善や人材育成に努め、優秀な技能者をかかえる事業所の施工能力を見えるようにすることを目指しています。

無料結核健診



- 誰でも健診が受けられます
- 1月 7日 (火) 10:30~12:00 萩之茶屋北公園 (仏現寺)
 - 1月 14日 (火) 13:30~15:30 西成労働福祉センター
 - 1月 16日 (木) 13:30~15:00 萩之茶屋中公園 (四角公園)
 - 2月 4日 (火) 13:30~15:30 西成労働福祉センター
 - 2月 13日 (木) 13:30~15:30 西成労働福祉センター
- 健診場所は毎回異なります。くわしくはセンター窓口まで。

技能や経験が評価されるよう変わる？

建設キャリアアップシステム本格運用開始

建設・技能体験フェスタでは、事業本部の方にも話を聞きました。「全国の建設業技能者330万人を対象に、現在10万人が登録されています。事業所単位では2万件の登録です。カードを4段階に色分けし、評価基準の高いカードを所持する技能者を雇用する事業者は、入札参加のために必要な経営事項審査（経審）で加点がされます。事業所は、蓄積された現場入場履歴を、出面として活用することが可能です」という事でした。



展示されていたシステムカードリーダーでICカードを読み取る。

第7回事業所座談会開催

第7回事業所座談会を12月17日(火)に開催し、6社の事業所(7名)に参加いただきました。

「お互いのことを知る座談会」をテーマに、それぞれの自己紹介から始まり、年末の仕事の状況や人手確保に向けた取り組みについてなど、情報交換を行いました。続いて、参加事業所同士で名刺交換をし、なごやかな雰囲気で行いました。

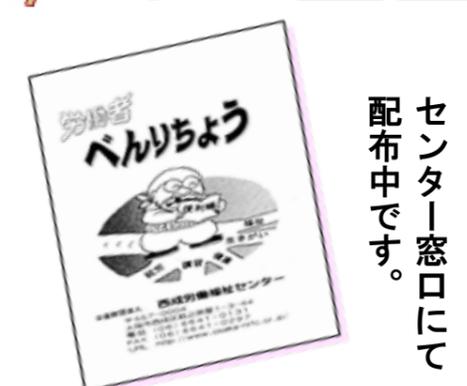
また、センターからは、早朝に現金求人希望する労働者が事務所に増えたことを伝えて、ぜひ事務所をマッチングの場所に利用していただくように依頼しました。

参加いただいた事業所からは「早朝は忙しくて、他の事業所と話をする機会がない。今回は交流ができてよかった。」「名刺交換を行った事業所の事務所を見学することになった。今後、連携を深めていきたい。」という声をいただきました。

環境整備紹介日

業務内容: 不法投棄抑制のための巡回など
雇用期間: 6日間 (深夜勤務のみ3日間)
紹介時間: 10時20分

48回目	1月 9日(木)
49回目	1月15日(水)
50回目	1月21日(火)
51回目	1月27日(月)
52回目	1月31日(金)
53回目	2月 6日(木)
54回目	2月13日(木)



たずね人

池内 敬浩さん (長崎県 39)

2020年版 労働者べんりちよう センター窓口にて配布中です。

釜ヶ崎日誌

12月8日 ライフサポート路木にてよろず相談会が開催される。

12月11日 西成市民館にてすまい探し相談会が開催される。

12月23日 西成区役所で第47回労働施設検討会議が開催される。

12月28日~1月6日 第50回釜ヶ崎越冬闘争